

# PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 62-286922

(43)Date of publication of application : 12.12.1987

(51)Int.CI.

A61K 9/70

(21)Application number : 61-129836

(71)Applicant : NAKAJIMA TAKEHIRO

(22)Date of filing : 03.06.1986

(72)Inventor : NAKAJIMA TAKEHIRO

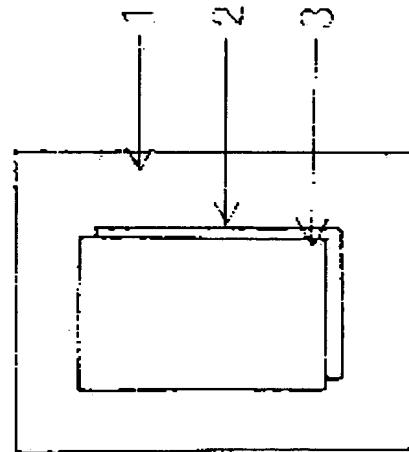
## (54) FOMENTATION OF CARBONIC ACID GAS

### (57)Abstract:

PURPOSE: A fomentation containing a carbonic acid gas a main component.

CONSTITUTION: A cloth 2 containing a carbonate and an organic is applied to a pressure-sensitive adhesive cover 1 not permeating water, cloth 3 wetted with water is piled on the cloth 2 to give a fomentation. Since a carbonic acid gas lacks in stability, the carbonate and the organic acid are used for prescription in order to generate a carbonic acid gas in use and the appendage cloth 3 is used to dissolve the generated carbonic acid gas in water.

EFFECT: Since the dosage form is a fomentation, a carbonic acid gas known to improve blood circulation can be readily used for treatment.



## LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

⑩ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭62-286922

⑬ Int.Cl.  
A 61 K 9/70

識別記号  
A-6742-4C

⑭ 公開 昭和62年(1987)12月12日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全2頁)

⑮ 発明の名称 炭酸ガスのシップ剤

⑯ 特願 昭61-129836

⑰ 出願 昭61(1986)6月3日

⑱ 発明者 中島 健博 岐阜県海津郡海津町馬目479-1

⑲ 出願人 中島 健博 岐阜県海津郡海津町馬目479-1

明細書

1. 発明の名称

炭酸ガスのシップ剤

2. 特許請求の範囲

1. 炭酸ガスをシップ剤の主成分とする。
2. 炭酸塩と有機酸をシップ剤の処方とし、用時炭酸ガスを発生させる。
3. 炭酸ガスを溶存させるために、使用時シップ剤の布を水に濡らして用いる。

3. 発明の詳細な説明

(イ) 産業上の利用分野

この発明は、シップ剤の主成分に炭酸ガスを用いるものである。

(ロ) 従来の技術

炭酸ガスが血行を良くする事は従来からよく知られており、これまでに人工

炭酸泉として浴用剤が作られていた。

浴用剤の処方としては炭酸塩と有機酸を用いるもの等があった。しかし炭酸ガスをシップ剤としたものは無かった。

(ハ) 発明が解決しようとする問題点  
炭酸ガスは気体であり、これを治療に用いることは容易ではない。浴用剤では風呂またはこれに代るものが必要であり、手軽に使用することに難点があった。

(ニ) 問題点を解決するための手段  
以上の問題点を解決するために、この発明では、剤形をシップ剤としている。また、炭酸ガスは安定性に欠けるため、使用時に炭酸ガスを発生させることを目的として、処方には炭酸塩と有機酸を用いている。発生させた炭酸ガスを水に溶かして溶存炭酸ガスとするため

に、付属の布を用いる。図面第一図の2は炭酸塩と有機酸を含んだ布で、水を通さず粘着性を持ったカバー(1)の中央につけられている。

## (ホ)作用

剤形がシップ薬であるため、手軽に用いることが出来る。

## (ヘ)実施例

図面を用い実施例を説明すれば、使用時に付属の布3を水で濡らし、これを布2に重ね、第三図の状態でシップ薬としてもらひる。

## (ト)発明の効果

この発明により、血行を良くすることが知られている炭酸ガスを、容易に治療に用いることが可能となった。

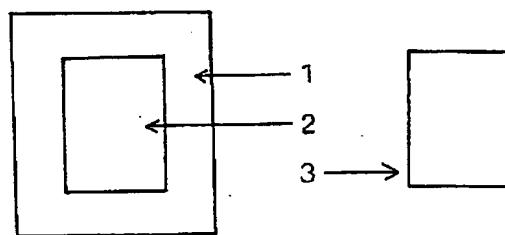
## 4. 図面の簡単な説明

第一図はシップ薬。水を通さないビニール等の粘着性カバーに、炭酸塩と有機酸を含んだ布がついている。第二図は付属の布。第三図は水で濡らした布3を布2に重ねた図。この状態でシップ薬として用いる。

1……カバーの粘着部 2……炭酸塩と有機酸を含んだ布 3……付属の布

特許出願人 中島健博

第一図



第二図

第三図

